



公立神崎総合病院 広報誌



Vol. **01**

2025  
Autumn

# すずらん 通信

創  
刊  
号

*new!*

はじめて「すずらん通信」です

## Pick UP

P.1 ~ 3 ▶

対談

神崎総合病院

大澤院長 ×

神崎総合病院

高階事務長

～地域とともに歩む 医療をめざして～

P.3 ▶ 神崎病院のあゆみ

P.4 ▶ レスパイト入院について・訪問診療ははじめました

P.5 ▶ リハビリ科通信・レシピーコーナー

P.6 ▶ 併設施設紹介（かんざき訪問看護ステーション）

P.7 ▶ ご意見・ご感想／編集後記

Süzüran





聞き手  
ケアステーションかんざき所長  
西本 寛 さん

# 地域とともに歩む 医療をめざして



地域に根ざした  
あたたかい病院へ

【西本】（聞き手）院長にご就任されて間もなく2年になります。これまでのご経歴を教えてください。

大澤院長（以下、院長） 約25年前に外科医長として5年間、当院に勤務していました。その後は、兵庫県立がんセンターで7年、兵庫県立姫路循環器病センターで13年勤め、再びご縁があってこの病院に戻ってきました。久しぶりに当院に戻ってきましたが、地域の

皆さんの人柄の温かさを改めて感じています。

【西本】 事務長も着任されて1年半です。病院の印象はいかがですか？

高階事務長（以下、事務長） はい。まず感じたのは、患者さんと職員との距離の近さですね。地元出身のスタッフも多く、まさに「地域に根ざした病院」という言葉がぴったりだと思いました。小回りのきく温かい医療が、ここにはあると感じています。



神崎総合病院  
高階事務長  
Syouzo Takashina



神崎総合病院  
大澤院長  
Masato Osawa

対 談

長期療養も、  
地域の中で

「地元で療養を続けたい」という  
想いに応えて

【西本】 長期療養のために「療養病床」を設けられたそうですね。

院長 はい。これまで当地域では、医療機関での長期療養が必要になった場合の受け皿がなく、遠方での療養を余儀なくされる方も多くいらっしゃいました。そこで、院内に療養病床を確保し、できるだ

地域に足を運ぶ  
「訪問診療」

地域に寄り添う医療への挑戦

【西本】 昨年から訪問診療を始められました。その背景を教えてください。

院長 院長就任後、近隣の病院やクリニックを訪ねて、地域の医療課題やご要望を伺いました。その中で、地域で唯一の公立病院として、訪問診療などの「地域に寄り添う医療」が求められていると感じ、昨年7月から週1回の訪問診療をスタートしました。まだまだ手探りの状況ですが、診療日や診療科の拡大を視野に入れて、取り組みを進めています。

事務長 訪問診療というと、クリニックの先生方が担うイメージがあるかもしれませんが、神河町のような医療資源が限られた地域では、公立病院だからこそできる支援があると思っています。当院では「地域密着型多機能病院」を掲げ、住民の皆さんのさまざまなニーズに応える体制づくりを進めており、訪問診療やレスパイト入院はその一環です。

けご家族の近くで安心して療養できる環境を整えました。

事務長 ご家族も高齢の方が多く、遠方までの移動は大変です。また働きながら介護されている方にとっても、地元で入院先があることは心強いはず。まだ病床数には限りがありますが、少しずつ拡充していければと考えています。

地域とのつながりを  
深める連携

医療・介護・福祉が手を取り合う  
まちづくり

【西本】 地域のクリニックとの連携状況はいかがですか？

院長 地域連携室を中心に、クリニックの先生方と直接お会いし、「ご意見を伺うようにしています。通院されている方が急変して入院が必要になるケースや、退院後にかけつけ医へスムーズに戻るための情報共有の仕組み作りを通して、連携強化を目指しています。また、ご紹介の際は、早めにご連絡いただけると受け入れの準備がスムーズになりますので、ぜひご協力いただければと思います。

レスパイト入院で  
介護を支える

家族の「少しの休息」が、前向きな介護につながる

【西本】 「レスパイト入院」は在宅で療養されている患者さんを病院で一定期間お預かりすることによって、「ご家族の介護負担を軽減する仕組みですが、利用者の方々の反応はいかがですか？

院長 非常に好評をいただいています。在宅介護は本当に大変で、365日気が抜けないことも多いと思います。当院で「一時的にお預かりすること」で、「ご家族が心身を休めることができ」、「また頑張ろう」と思えるような時間を提供したいと考えています。利用者さんやケアマネジャーの声を取り入れながら、より使いやすい制度になるよう改善を重ねています。

【西本】 手続きのサポート体制もしっかりされていると伺いました。

院長 はい。「手続きが難しい」と不安を感じる方もいらっしゃると思いますが、職員が丁寧にサポートしますので、ぜひ気軽にご相談ください。

事務長 はい。介護施設との連携は大切と考えています。昨年から、地域の6つの介護施設と連携協定を結び、医療と介護の橋渡しをスムーズに進める取り組みを強化しています。

これからも、  
地域とともに

「うちとこの町病院」である  
ことを、これからも。

【西本】 最後に、地域の皆さんのメッセージをお願いします。

院長 どんな小さな不安でも気軽に相談できる、「地域の頼れる病院」でありたいと思っています。都会の大病院とは違い、当院はスタッフの数に限りがあり、夜間の診療体制に制限があります。そのため、できるだけ日中の受診をお願いしていますが、「ちょっと気になる」段階で受診していただくことで、大きな病気を防ぐこと

にもつながります。夜間でも、看護師がご相談に応じますので、どうぞ遠慮なくお電話ください。

**事務長** 人口1万人規模の町に公立病院があることは、全国的にも希少なことです。これからこの地域で、安心して暮らせる医療を守り続けるために、できる限りの挑戦を続けていきます。どうぞよろしく願います。

### 対談を終えて

**西本** 今回の対談を通して、「地域に根ざした医療」を強い想いとともに実践されていることを実感しました。お話の一つひとつは、どれも住民の生活に寄り添う取り組みであり、公立病院としての役割を再確認する機会にもなりました。地域とともに歩み続ける姿勢に、大きな心強さを感じます。

本紙を読まれた方が、「困ったときはまず相談してみよう」と感じていただければ幸いです。今後、も病院と地域が力を合わせ、安心して暮らせるまちづくりが進んでいくことを願っています。

## レスパイト入院について

当院では、「ご自宅で介護をされているご家族などの介護者の方が、一時的に介護から離れて休息を取っていただくよう、「レスパイト入院（短期医療入院）」を実施しています。

### 「レスパイト入院」とは？

「レスパイト (respite)」とは、「休息」や「ひと休み」を意味する言葉です。

在宅で介護をされているご家族の介護疲れや体調不良、冠婚葬祭、旅行などにより、一時的に在宅介護が困難になる場合に、**短期間の入院受入を行い、介護者の負担軽減をする制度**です。

介護を担う皆さまにリフレッシュの機会を持っていただき、今後も安心して介護を続けることができるようサポートします。

### 利用いただける方

原則として、病状は安定しているものの、在宅で医療機器を使用されていたり医療的ケアが必要なために、介護保険施設の「ショートステイ」の利用が難しい方が対象です。

お問い合わせ先は  
地域連携室

### 入院期間

1回の入院期間は**原則として14日以内**です。

繰り返しての利用の場合は、退院から1か月以上経過してからとなります。

なお、当院の病床状況によっては「希望に添えないこともあります。あらかじめご了承ください。

### 予約方法

レスパイト入院を希望の方は、まず「かかりつけ医」や「ケアマネジャー」にご相談ください。かかりつけ医がない場合は、当院の「地域連携室」にご相談ください。

利用希望日の**1か月前から2日前まで**にお申し出ください。おおむね1週間以内に入院の可否を「連絡」します。

### 利用費用

レスパイト入院の費用は、通常の入院と同様に医療保険による請求となります。

(例) 1割負担で10日間入院された場合の目安は約5万円です。)

※公費負担がある場合や、差額ベッド代などの保険外費用が発生することがあります。詳細はお問い合わせください。

## 訪問診療 はじめました!!

当院では、令和6年7月より訪問診療を開始しました。

「訪問診療とは、通院が難しくなった患者さんのご自宅などに定期的に医師が訪問し、診察・検査・お薬の処方などを行う診療のスタイルです。

訪問診療は、患者さんやご家族と事前に日時を相談して、計画的に行う診療です。

**急な体調変化などで行う「往診」とは異なります。**



田中医師

医者になって41年です。訪問診療は経験1年の新米ですが、地域の皆様のお役に立てるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



佐野医師

現在は、内科医2名体制で、神戸町にお住いの方を対象に毎週木曜日の午後実施しています。体制が限られているため、すべてのご要望にすぐにはお応えできない場合もありますが、「できることから一歩ずつ」を合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。

当院の歩みは、戦後まもない1946年に開設された小さな診療所から始まりました。医師はわずか1人、十分な設備もない診療所でしたが、それでも「この町には病院がある」という事実は、当時の人々にとって大きな安心となりました。

それから約80年。地域とともに少しずつ成長し、病院としての機能を広げてきました。高度経済成長の活気ある時代から、少子高齢化が進む現在まで、社会は大きく変わりましたが、私たちが大切にしてきた思いは変わりません。これからも、この町に「安心」を届け続ける存在でありたいと考えています。



Kanzaki  
hospital  
history

### 昭和21年

兵庫県立栗賀診療所として現所在地に開設  
戦後の農村の医療を担う公的診療拠点として設置



### 昭和30年

町村合併で神崎町立診療所となる

### 昭和42年

「神崎町病院」に改称診療科拡張  
(内科・外科・産婦人科・歯科)



### 昭和46～63年

整形外科・小児科・眼科・神経内科などを順次開設  
地域医療の専門性を強化

### 平成2年

「公立神崎総合病院」に改称し、  
現在の名称となる



### 平成3～16年

人工透析センター・精神科・麻酔科などを開設  
増改築の実施で病床数は徐々に拡大し155床へ  
中館の増改築完了  
ISO9001 認証取得、医療機能評価認定など品質管理も強化



### 平成26年

地域包括ケア病棟を開設  
退院後の在宅支援や高齢者医療に対応できる体制を整備

### 平成29年～現在

北館改築完了により140床(急性期90+地域包括50)となる  
脳神経外科、血管外科など診療科も充実  
訪問診療、レスパイト入院を開始

# かんざき訪問看護ステーション

「病気や障害があっても住み慣れた家で暮らしたい」、  
「人生の最期を自宅で迎えたい」など地域に密着したサービスを目指します。

かんざき訪問看護ステーションは、指定訪問看護事業所として30年以上にわたり、地域の皆さまの在宅療養を支えています。私たちは医師の指示のもと、看護師やリハビリスタッフがご自宅を訪問し、お一人おひとりの病状や生活に合わせたケアや医療処置を提供しています。住み慣れたご自宅で、その方らしく安心して暮らしていただけるよう、「家庭療養のパートナー」として、寄り添う支援を大切にしています。

## かんざき訪問看護ステーションのサービス内容

- 
- ①血圧・脈拍・体温などのチェック
  - ②保清やトイレなどの介助・指導
  - ③医師の指示による点滴・注射・管類・酸素や人工呼吸器の管理・指導
  - ④リハビリテーション・生活範囲の拡大・生活環境や福祉用具の相談
  - ⑤介護予防・認知症の方への対応・ご家族への介護相談支援
  - ⑥傷や床ずれの予防・処置・指導
  - ⑦着取りのお手伝い・リラクゼーション

## ■ケアプランかんざき



ケアプランかんざきは、居宅介護支援事業所として、要介護認定を受けた方が住み慣れたご自宅で安心して暮らし続けられるよう、「ケアプラン（居宅サービス計画）」の作成や、各種サービスとの調整を行っています。

当事業所には、看護師の資格を持つケアマネジャー（介護支援専門員）が在籍しており、医療的な視点を活かしたサポートが可能です。また、併設する「かんざき訪問看護ステーション」との連携により、情報共有がスムーズで、個別のニーズに応じた質の高いケアの提供につながっています。さらに、市区町村や各サービス事業所、介護保険施設などと連携しながら、利用者さまに必要なサービスが適切に提供されるよう、きめ細やかな調整を行っています。

“利用者さまが**在宅で安心**して過ごせるよう、  
**医療**や**介護**、**福祉**に関わる専門職が**連携**しながら対応しています。

どうぞお気軽にご相談下さい”



「訪問看護サービスを受けるには」

まずは、かかりつけ医やケアマネジャーに相談ください。

（介護保険の申請をしていない方、または担当ケアマネジャーがいない方は、お住まいの市町にある「地域包括支援センター」へ相談ください。）

その後、看護師やリハビリスタッフがサービス内容・ご利用料金・訪問日程などについて説明・相談させていただきます。契約後は、医師の指示に基づいて、看護師やスタッフが定期的に訪問し、在宅での療養生活を安心して続けていただけるよう支援します。

【利用料について】

訪問看護サービスは、**医療保険**または**介護保険**を利用してご利用いただけます。介護保険をご利用の場合は、要介護度に応じて支給限度額が設定されています。

《費用例》

週1回、1時間の看護師訪問  
1ヶ月あたり約3,320円

（4回分の訪問費用）

（要介護度で介護保険1割負担の方）

※詳しいご利用料金や自己負担額については、担当のケアマネジャーまたは当事業所までお気軽にご相談ください。

☎07990(3)22422

## 肩をほぐす運動②

痛みがなくなったが、まだ硬い場合

### ①Y-W運動

両手を斜め上に広げ、脇を閉めて肩甲骨で「Y」を作る。よせて「W」を作る。



肩甲骨を意識!

10回×2〜3セット

### ②肩伸展(タオル運動)

①息を大きく吸い、肩甲骨を寄せる。胸を張りながら腕を後ろに上げる。

②息を吐くと同時に元の姿勢に戻す。

10回×2〜3セット

### ③背中洗う(タオル運動)

タオルで背中を洗うようにゆっくりと動かす。



10回×2〜3セット

リハビリテーション技術科 理学療法士  
稲葉大翔 / 岩田脩聡

## 肩をほぐす運動①

痛みが減ってきたが、動きにくい場合

### ①テーブル運動

体を前に倒して、机を拭くようにする。

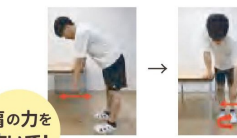


10〜15回×2〜3セット

タオルを準備!

### ②振り子運動

痛くない方の手を机に置き、体を前に倒す。体を揺らしながら痛い方の腕を動かす。「前後」「左右」「円を描く」



肩の力を抜いて!

20回×2〜3セット

### ③肩外旋運動

椅子に座った姿勢で痛い方の肘を90度曲げ、脇を締める。反対の手で腕をつかみ、内・外に肩を動かす。



腕を動かすように!

20回×2〜3セット

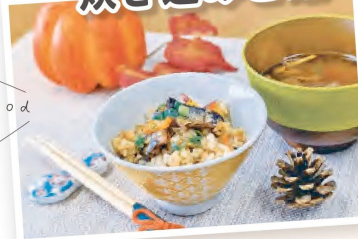
肩関節周囲炎(五十肩)

ハビリ科通信



※主治医から運動制限を受けている方は、運動をお控え下さい。

## サンマ缶の炊き込みご飯



### 材料(2〜3人前)

米 …………… 1 合  
サンマ缶 …………… 100g  
さつまいも …………… 30g (さいのめ切り)  
しめじ …………… 30g (ほぐす)  
人参 …………… 20g (短い千切り)  
しょうが …………… 10g (千切り)  
細ネギ …………… 適量 (小口切り)

調味料 醤油 …………… 小さじ2  
酒 …………… 小さじ1  
みりん …………… 小さじ1  
和風だし …………… 小さじ1/3

### 作り方

- ①米は洗ひ30分水にひたす。
- ②水をぎった米に調味料を入れ、水を炊飯器1のメモリまで入れる。
- ③切った材料、さんま缶(汁もすべて)を入れ、炊飯する。
- ④炊きあがったら、お好みでネギをちらす。

### point

サンマの缶詰には、中性脂肪を低下させるDHAやEPAが豊富に含まれています。お手軽に秋の味覚をお楽しみ下さい。

Suzuran



アンケートのお願い

すずらん通信の  
ご意見・ご感想をお寄せください。



公立神崎総合病院のシンボルマークは「すずらん」です。

すずらんの花言葉は「復活・再び幸せが訪れる」。厳しい冬を乗り越え、春の訪れを告げる可憐な花であることから、この花言葉がつけられたといわれています。

当院のシンボルマークには、「患者さまにとって、健康で幸せな日々が再び訪れますように」という願いがこめられています。

**この想いを広報誌の名前にも託し、「すずらん通信」と名づけました。**

皆さまの暮らしの中に、少しでも安心や希望をお届けできるような情報を発信してまいります。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

Süzüran



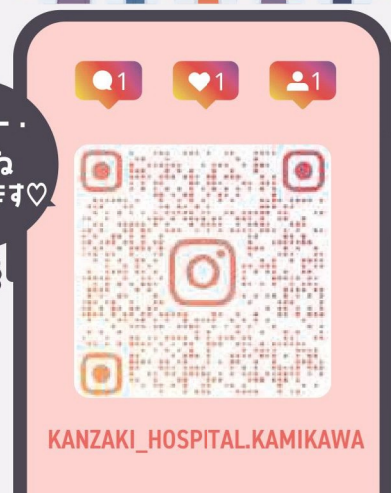
#公立神崎総合病院の  
Instagram 公式アカウントができました!!

Follow Me



院内の様子やスタッフの紹介をはじめ、採用情報やお知らせなどを投稿しています!!

フォロー  
いいね  
お願いします♡



## 編集後記



このたび、病院広報誌『すずらん通信』を創刊することとなりました。

およそ80年前、この地で小さな診療所として歩みを始めた当院は、時代の変化に応じて姿を変えながら、今日まで地域の医療を担ってまいりました。

病院は「治療の場」であると同時に、「地域の暮らしを支える場」でもあります。私たちは、これからも地域の皆さまとともに、よりよい医療と暮らしを考え、未来をともにつくる挑戦を続けていきたいと考えています。

この広報誌も、その挑戦への小さな一歩です。どうぞ末永くご愛読いただければ幸いです。



公立神崎総合病院

〒679-2493 兵庫県神崎郡神河町栗賀町385

TEL 0790-32-1331(代)

URL <https://www.town.kamikawa.hyogo.jp/kanzaki-hp/>

併設施設：かんざき訪問看護ステーション

連携施設：ケアステーションかんざき／神崎郡在宅医療・介護連携支援センター／神崎郡病児病後児保育室

■2025年11月発行 ■編集・発行／公立神崎総合病院広報委員会



ホームページ



instagram